

## 実体経済の動向

### ◇生産、出荷とも2か月連続の増加、在庫は前月増加のあとかなりの減少

(生産——小幅ながら2か月連続の増加)

7月の鉱工業生産(季節調整済み、前月比<sup>(注)</sup>、速報)は、+0.5%と小幅ながら前月(+2.6%)に続き増加した(前年同月比+3.0%)。

(注) 以下増減率は特に断わらない限り前月比または前期比(物価を除き季節調整済み)。

7月の動きを財別にみると、生産財を除き各財とも増加した。すなわち、資本財輸送機械は、小型自動車、バス、トラック等大方の品目が前月に続き増加したことから、全体でも2か月連続してかなりの増加となり、また、前月小幅減少となった一般資本財も、事務合理化関連機器(事務用機械、電子計算機)が増勢を続けたほか、製造設備関連機器(化学機械、金属加工機械等)や土木建設機械(装輪式トラクタ、ショベル系掘さく機)で前月減少のあと増加した品目が数多くみられたため、全体でもかなりの増加となった。また、耐久消

### 鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(-)率・%)

	55年		56年		56年		
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	5月	6月	7月
鉱工業指数	140.5	142.6	145.0	144.5	142.4	146.1	146.9
前期(月)比	-2.0	1.5	1.7	0.3	-1.8	2.6	0.5
前年同期(月)比	4.6	3.4	1.4	0.8	-0.4	2.6	3.0
投資財	-1.2	0.1	-1.0	-0.1	0.7	2.1	2.6
資本財	1.5	1.4	-0.6	0.1	1.9	1.2	4.0
同(輸送機械を除く)	1.4	2.0	-1.9	1.0	4.8	-0.6	2.6
輸送機械	0.6	-2.0	5.0	-1.2	-8.5	7.7	7.7
建設財	-7.7	-3.4	-3.3	0.1	-3.3	4.1	0.2
消費財	0.8	4.6	5.3	-0.7	-2.2	3.4	0.3
耐久消費財	3.8	6.0	8.1	1.2	-2.3	3.6	0.3
非耐久消費財	-1.5	2.3	2.4	-2.3	-2.3	2.6	0.5
生産財	-4.2	0.7	0.8	-0.4	-3.4	2.1	0.8

(注) 通産省調べ。56年7月は速報。  
前年同期(月)比は原指数による。

費財は、時計が輸内需頭打ちから減勢を続けたほか、軽自動車、冷蔵庫等も減少したものの、輸出好調の光学機械・同部品、ステレオセット、小型石油ストーブ等が増勢を続けたほか、小型自動車が前月に続き増加したことなどから、全体では小幅ながら2か月連続の増加となり、非耐久消費財も、ニットおよび繊維二次製品や浴用石けん等が減少した反面、灯油、家庭用合成洗剤、天然色フィルム等が増加したため、前月に続き増加した。さらに、建設財も、建設用金属製品(鉄骨、アルミドア、スチールシャッター)や銅電線が減少したものの、普通鋼熱間鋼管、亜鉛めっき鋼板が輸出増加から、条鋼類(小形棒鋼、H形鋼)、窯業・土石製品(セメント、板ガラス、コンクリートパイル)が在庫調整の進展や官公需増加等から、それぞれ増加したため、わずかながら2か月連続の増加となった。

一方、生産財は、鋼材(鋼帯、冷間仕上鋼材)、鋳鍛品、自動車部品(自動車車体、自動車タイヤ)等が増加したものの、石油製品が行政指導により減産強化となったほか、在庫調整を企図したメーカーの抑制的な生産姿勢を映じて、鉄鋼素製品(フェロアロイ等)、非鉄地金(アルミ等)、化学肥料、無機薬品、石油化学製品(プラスチック等)、紙(板紙等)、紡績(綿糸等)、織物等が減少したため、全体でも前月増加のあと、小幅減少となった。

(出荷——2か月連続の増加)

7月の出荷(速報)は、+1.6%と前月(+2.2%)に続き増加した(前年同月比+3.4%)。

7月の動きを財別にみると、一般資本財は4か月連続の増加となり、他の財はいずれも2か月連続の増加となった。すなわち、一般資本財は、事務合理化関連機器(事務用機械、電子計算機)、電力・電電関連機材(電力・通信ケーブル、通信機械、標準変圧器)が増勢を続けたうえ、化学機械、繊維機械、パッケージ型エアコン等が前月減少のあと大幅増を示したことから、4か月連続の増加となり、資本財輸送機械も、小型・普通自動車、

バス、トラック(軽、小型)、船舶等の増加を主因に2ヵ月連続して増加した。また、耐久消費財も、時計、二輪自動車、軽自動車等が減少したものの、7月入り後の暑気本格化に伴い、エアコン(ウインド型、セパレート型)が著増したほか、輸出好調の光学機械・同部品、ステレオセット、小型石油ストーブ等も増加したことから、前月に続きかなりの増加となった。さらに、建設財も、官公需関連資材(セメント、遠心力鉄筋コンクリート管、道路用コンクリート製品)や建築・住宅資材(H形鋼、建設用金属製品、板ガラス、ガス風呂がま)の増加を映じて2ヵ月連続の増加となった。この間、非耐久消費財も、前月に続きかなりの増加を示したが、これには、石油製品(揮発油、灯油)が流通・ユーザー筋の値上げ前の手当買いを映じてかなりの増加となったことが大きく寄与している。また、生産財も、小幅ながら2ヵ月連続の増加を示したが、非耐久消費財と同様、石油製品(揮発油、軽油、A重油)の大幅増加が目立っており、これ以外では、鋼材(鋼板、鋼帯、冷間仕上鋼材)、非鉄地金(亜鉛、アルミ)、通信・電子部品、化学肥料、ソーダ工業薬品、化学繊維等が増加したのに対し、繊維原料、プラスチック、

合成ゴム、板紙、紡績(綿糸、毛糸等)、自動車部品は減少するなど、品目により区々の動きとなった。

#### (在庫——前月増加のあとかなりの減少)

7月の在庫(速報)は、-1.4%と前月増加(+1.3%)のあとかなりの減少(前年同月比+2.8%)となり、在庫率指数(50年=100)も、90.3と前月(93.6)に比べ3.3ポイント低下した。

在庫の増減を財別にみると、一般資本財、資本財輸送機械、耐久消費財は増加したが、建設財、非耐久消費財、生産財は減少した。すなわち、一般資本財は、金属加工機械、事務用機械、通信機械、農業用機械を中心に5ヵ月連続の増加となり、資本財輸送機械も、普通自動車が増加したのを除き、小型自動車、バス、トラックが軒並み増加したため、2ヵ月連続の増加となった。また、耐久消費財は、民生用電気機械(ウインド型エアコン、電子レンジ、電気洗たく機)、暖ちゅう房熱機器(ガスコンロ、小型石油ストーブ)、軽自動車が出荷増等から減少したものの、小型自動車、二輪自動車、光学機械・同部品、時計等が増加したため、3ヵ月連続して増加した。

一方、建設財は、普通鋼熱間鋼管、亜鉛メッキ

### 鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類は前期(月)比増減(-)率・%)

	55年		56年		56年		
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	5月	6月	7月
鉱 指 数	133.8	136.6	138.6	138.0	135.4	138.4	140.6
工 前 期(月)比	-3.1	2.1	1.5	0.4	-3.4	2.2	1.6
業 前 年 同 期(月)比	2.1	1.1	-0.1	-0.1	-1.3	1.5	3.4
投 資 財	-1.0	-0.9	-0.1	0.8	-1.8	3.2	2.0
資 本 財	1.7	0.3	0.0	1.6	-1.0	2.3	2.7
同 (輸送機械を除く)	2.3	2.0	-1.6	2.7	0.7	0.9	2.2
輸 送 機 械	2.1	-4.4	2.1	0.7	-6.1	6.1	4.1
建 設 財	-6.0	-2.8	-2.9	-0.3	-3.3	5.0	1.8
消 費 財	-1.0	5.1	5.2	-2.6	-5.8	3.0	2.8
耐 久 消 費 財	-0.5	8.6	8.0	-3.3	-6.9	2.1	2.7
非 耐 久 消 費 財	-1.3	2.9	1.8	-2.3	-4.7	2.7	3.0
生 産 財	-5.3	2.2	0.4	-0.5	-4.0	2.2	0.6

(注) 通産省調べ。56年7月は速報。  
前年同期(月)比は原指数による。

### 鉱工業在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類は前期(月)末比増減(-)率・%)

	55年(期末)		56年(期末)		56年		
	9月	12月	3月	6月	5月	6月	7月
鉱 指 数	114.0	114.4	116.0	117.1	115.6	117.1	115.5
工 前 期(月)末比	3.3	0.4	1.4	0.9	-0.1	1.3	-1.4
業 前 年 同 期(月)末比	10.7	8.5	8.1	6.0	6.1	6.0	2.8
投 資 財	4.5	1.9	0.4	1.4	-0.1	2.0	1.5
資 本 財	6.4	1.9	1.8	3.1	-0.2	4.3	3.0
同 (輸送機械を除く)	7.3	1.4	-0.1	5.0	0.6	2.7	2.0
輸 送 機 械	4.3	3.0	5.8	-0.1	-2.1	7.0	4.4
建 設 財	2.4	-0.1	0.4	-1.3	0.4	-0.6	-0.9
消 費 財	2.1	-1.5	0.5	2.1	1.3	1.3	-1.3
耐 久 消 費 財	11.3	-1.3	-6.6	2.5	1.4	2.5	1.1
非 耐 久 消 費 財	-5.1	-3.1	9.1	0.8	0.9	-0.2	-3.0
生 産 財	3.4	0.5	2.6	0.5	-0.4	0.8	-3.1

(注) 通産省調べ。56年7月は速報。  
前年同期(月)末比は原指数による。

鋼板等が増加したものの、小形棒鋼を除く条鋼類(H形鋼、その他の形鋼)、建設用金属製品(アルミサッシ、アルミドア等)、セメント、板ガラス、土石製品(遠心力鉄筋コンクリート管ほか)等がメーカーの生産抑制あるいは出荷の増加により軒並み減少したため、全体でも2か月連続の減少となった。また、生産財も、石油製品(揮発油、ナフサ、軽油、A・B・C重油)がメーカーの減産強化かたがた流通・ユーザーの手当増から大幅減少をみたうえ、その他大方の品目(鉄鋼素製品、非鉄地金、化学肥料、繊維原料、化学繊維、紡績、織物、紙)が、メーカーの生産抑制による在庫調整進捗を映じて減少したため、前月小幅増加のあと大幅減少となった。この間、非耐久消費財も、石油製品(揮発油、灯油)やニットおよび繊維二次製品的大幅減少を主因に前月に続き減少した。

(民間設備投資—機械受注は4か月ぶりに増加、建設工事受注は2か月連続の減少、一般資本財出荷は増勢持続)

7月の機械受注(船舶・電力を除く民需)は、+3.2%と4か月ぶりに増加した(前年同月比-8.8%)。これは、非製造業からの受注が建設機械、農業機械を中心に+7.9%と前月減少(-6.2%)のあと増加したことによるもので、製造業からの受

需要先別機械受注・建設工事受注の推移

(季節調整済み、月平均、単位・億円)

	55年		56年		56年		
	10~12月	1~3月	4~6月	5月	6月	7月	
民需	7,514 (36.0)	5,890 (-21.6)	5,754 (-2.3)	5,836 (-0.2)	5,577 (-4.4)	5,064 (-9.2)	
同(船舶・電力を除く)	4,886 (11.8)	4,431 (-9.3)	4,362 (-1.6)	4,318 (-8.1)	4,072 (-5.7)	4,204 (3.2)	
製造業	2,659 (19.3)	2,432 (-8.5)	2,471 (1.6)	2,428 (-10.2)	2,279 (-6.1)	2,272 (-0.3)	
非製造業	4,618 (38.3)	3,515 (-23.9)	3,267 (-7.1)	3,218 (-2.6)	3,277 (1.8)	2,766 (-15.6)	
同(船舶・電力を除く)	2,305 (7.8)	2,025 (-12.1)	1,885 (-6.9)	1,926 (0.2)	1,807 (-6.2)	1,950 (7.9)	
建設工事受注(民間)	4,125 (4.8)	4,317 (4.6)	4,668 (8.1)	5,207 (10.8)	4,098 (-21.3)	3,611 (-11.9)	

(注) 機械受注は 経済企画庁調べ。建設工事受注は 建設省調べ(43社ベース)。カッコ内は前期(月)比増減(-)率(%)。

注は、船舶、紙・パ、化学等が増加した反面、鉄鋼、自動車等が前月大幅増加のあと反動減となったため、-0.3%と小幅ながら3か月連続して減少した。

一方、7月の建設工事受注(民間分、速報)は、-11.9%と、新耐震法施行前の駆け込み着工の反動が尾を引いたこともあって、2か月連続(前月-21.3%)の減少となった。

この間、7月の一般資本財出荷は、+2.0%と3月以来5か月連続して増加した(前月+2.7%)。品目別にみると、建築関連のクレーン、ベルトコンベアや特殊産業機械(印刷機械等)は前月に続き減少したものの、事務合理化関連の事務用機械、電子計算機や電力・電電関連の電力・通信ケーブル、標準変圧器、通信機械が増勢を続けたほか、製造設備関連の金属加工機械も2か月連続して増加した。

◇小売商況—7月の小売商況は夏物商品を中心に総じて持直し

7月の全国百貨店売上高(通産省調べ、前年比、速報)は、+7.7%(前月+4.8%)と暑気到来に伴う夏物季節商品の持直しを主因に伸びを高めた。品目別には、家具、呉服が引続き不ぞえながら、家電製品、紳士・婦人服が夏物商品を中心に好伸したほか、飲食料品も底固い伸びを続けた。もっとも、8月入り後の都内百貨店売上高は残暑による秋物衣料の出足低調もあってやや伸び悩んだ模様である。

8月の主要耐久消費財の販売状況を見ると、乗用者新車登録台数(軽を除く)は、前年比+2.2%とモデルチェンジを梃子としたディーラーの拡販努力もあって久方ぶりに前年水準を上回った(4~6月-2.2%)。また、家電製品販売は、VTR、音響製品(テープレコーダー、ステレオ等)がこれまでに比べれば幾分伸び悩んだものの、エアコン、扇風機が好調な売行きを示したほか、冷蔵庫等白物家電製品も前月に続きやや持直した。

◇商況の基調—保合い商状

8月の商品市況は、メーカーの減産態勢維持を

背景に石油製品が続伸し、一部官公需関連資材(型枠用合板、コンクリート・パイル)も荷動き回復を映じて強含みに推移したが、他方で棒鋼、銅、綿糸等主力商品が輸出成約難や海外安、円相場の反騰などから小反落を示すなど、大勢としてみると夏季休暇による商内閑散もありおおむね保合い商状に推移した。

(卸売物価——0.5%の上昇)

8月の卸売物価は、前月比+0.5%と5ヵ月連続の上昇となった(前年同月比+0.9%)。品目別にみると、国内品は、民生用石油製品値上げや食料品の値上り(肉類、卵)等から+0.5%の上昇と

なった。一方、輸出品は為替円安や需要好調に伴う油井用鋼管等の値上りから、輸入品も為替円安を主因に、それぞれ+0.7%、+0.6%と続伸した。

用途別にみると、素原材料は為替円安から+0.6%と続伸したほか、中間品も石油製品値上げが響き+0.5%の上昇となった。この間、完成品は、資本財は引続き落着いているものの、消費財が石油製品、食料品を中心に値上りしたため、+0.4%の上昇となった。

卸 売 物 価 指 数 の 推 移

(前月(期)比騰落率・%)

	ウエイト	56年		56年					最近月の 前年 同月比
		1~3月 平	4~6月 均	4月	5月	6月	7月	8月	
総 平 均	1,000.0	- 0.7	1.1	- 0.5	0.8	0.4	0.4	0.5	0.9
食 料 品	140.9	0.3	0.8	0.2	0.7	0.2	0.3	0.4	3.6
非食料農林産物	18.9	- 2.8	- 0.7	1.0	0.4	- 0.6	- 1.1	- 1.2	- 12.1
織 維 製 品	62.9	- 0.4	0.4	- 0.1	0.2	0	0.3	0.7	- 0.5
製 材・木 製 品	33.6	- 3.9	- 0.7	0.9	1.0	- 1.0	- 0.8	- 0.4	- 11.5
パルプ・紙・同製品	28.9	- 2.8	- 1.9	- 0.7	- 0.5	- 0.2	- 0.3	- 0.3	- 7.2
金 属 素 材	12.6	- 5.9	5.4	3.1	2.6	0.6	1.6	1.9	- 3.6
鉄 鋼	80.7	- 1.4	1.7	0.9	0.8	1.4	0.9	0.1	1.0
非 鉄 金 属	26.1	- 8.7	- 0.7	1.0	- 0.6	- 0.2	- 1.0	2.0	- 12.3
金 属 製 品	37.0	- 0.4	- 0.5	- 0.2	0	0	- 1.0	- 0.4	- 1.4
電 気 機 器	73.3	0.3	- 0.1	- 0.3	0.2	0.3	0.3	0.2	0.9
輸 送 用 機 器	74.0	0.3	1.3	0.2	1.4	0.1	0.4	0.1	2.4
一 般・精 密 機 器	95.7	0	0.5	0.5	0.1	- 0.1	0.2	0.2	1.2
化 学 製 品	91.1	- 2.1	- 0.5	0	0.2	- 0.5	0.5	0.3	- 3.4
石油・石炭・同製品	102.2	0.4	5.4	1.5	3.1	2.4	0.9	2.0	10.1
窯 業 製 品	30.5	0.3	0.1	0.2	- 0.2	0	0.2	0.1	1.8
電 力・ガ ス	25.5	0.1	0.3	0.3	0.2	- 0.4	4.7	0.3	0.6
雑 品 目	66.1	1.2	- 0.1	0	0	0	- 0.5	0.1	1.1
工 業 製 品	816.4	- 1.1	0.7	0.4	0.7	0.3	0.2	0.5	- 0.1
大企業性製品	579.9	- 0.9	1.0	0.4	1.0	0.5	0.2	0.7	1.1
中小企業性製品	214.6	- 0.9	- 0.2	0.1	0.2	- 0.2	0	- 0.1	- 2.4
非 工 業 製 品	158.1	- 0.5	3.3	1.1	1.3	1.2	0.8	0.6	5.2
国 内 品	801.9	- 0.8	0.2	0.1	0.5	0.1	0.2	0.5	- 0.4
輸 出 品	94.2	- 0.3	4.5	1.5	2.0	1.7	2.1	0.7	6.2
輸 入 品	103.9	- 0.4	5.6	2.1	2.4	1.9	1.2	0.6	5.9

(注) 日本銀行調べ。

## 消費者物価指数の推移

(前月(期)比騰落率・%)

		ウェイト	56年		56年			最近月の 前年 同月比	
			1~3月 平均	4~6月 平均	6月	7月	8月		
東 京	総合	100.0	1.1	1.5	0.2	-0.3	*-1.0	* 3.7	
	生鮮食品を除く総合	92.7	0	1.8	0.3	-0.2	*-0.6	* 3.5	
	(生鮮食品)	(7.3)	(15.2)	(-1.1)	(0.1)	(-2.6)	*(-5.5)	* 6.3	
	食料	37.6	3.6	0.6	0.4	-0.3	*-1.0	* 4.5	
	住居	7.1	0.8	0.7	-0.3	0.2	0.1	2.6	
	光熱・水道	5.5	-0.1	0.2	0.2	0	0.2	0.4	
	家具・家事用品	4.7	0.2	0.4	0.4	0	-0.3	2.0	
	被服および履き物	9.4	-4.1	3.0	-0.6	-2.5	-8.1	1.7	
	保健医療	3.4	0.3	0.8	2.6	0.3	0.1	3.6	
	交通通信	9.2	-0.4	3.6	0.9	0.1	0.2	5.1	
教育	6.0	0.2	7.3	0.2	0	0	6.9		
教養娯楽	11.7	1.0	1.0	-0.3	0.2	*0.6	* 3.1		
諸雑費	5.4	0.6	1.0	-0.1	0.1	0.1	2.7		
季調済	総合	100.0	1.5	0.6	1.2	-0.4	-0.5		
	生鮮食品を除く総合	92.7	0.7	0.5	0.6	0	0.3		
全 国	総合	100.0	0.9	1.6	0.1	-0.3	...	4.4	
	生鮮食品を除く総合	92.6	0.2	1.8	0.2	-0.1	...	3.9	
	(生鮮食品)	(7.4)	(11.3)	(-0.2)	(-1.2)	(-2.9)	(...)	(11.8)	
	特殊分類	農水畜産物	14.2	6.8	-0.8	-0.8	-1.6	...	8.2
		工業製品	45.2	-0.7	2.0	0.3	-0.3	...	3.3
		うち大企業性製品	21.3	0	1.6	0.3	0	...	2.8
		中小企業性製品	23.9	-1.4	2.4	0.5	-0.6	...	3.9
	サービス	34.0	0.8	2.5	0.2	0.2	...	4.8	
季調済	総合	100.0	1.4	0.5	0.7	0.1	...		
	生鮮食品を除く総合	92.6	0.8	0.8	0.2	0	...		

(注) 1. 総理府統計局調べ(昭和55年基準)。

2. \*は速報。

(消費者物価——8月<東京都区部、速報>は前月比  
-1.0%と続落)

8月の消費者物価(東京都区部、速報<昭和55年基準>)は、前月比-1.0%と続落した。これは、生鮮食品が大幅に下落(-5.5%)したうえ、生鮮食品を除くベースでも、夏物衣料の値下りを主因に-0.6%の下落となったことによるもの。

なお、前年比上昇率は+3.7%と前月(+4.3%)をさらに下回り、54年9月(+2.6%)以来ほぼ2

年ぶりの4%台割れとなり、生鮮食品を除くベースでも+3.5%(前月+3.6%)と着実な低下を示した。

◇經常収支(貿易収支季節調整後)は4か月連続の黒字

7月の国際収支は、貿易収支が輸出の堅調に支えられ前月に続きかなりの黒字(2,356百万ドル、前月同2,583百万ドル)となったため、貿易外収支、移転収支の赤字幅拡大にもかかわらず、經常収支では871百万ドルと2か月連続の黒字となっ

国 際 収 支

(単位・百万ドル)

	55年		56年		56年			前年同月
	10~12月	1~3月	*4~6月	*5月	*6月	*7月		
経常収支	608	△ 2,076	1,512	△ 277	1,315	871	△ 951	
貿易収支	3,759	2,048	4,956	856	2,583	2,356	154	
輸出	36,514	34,924	37,404	12,192	12,590	13,359	11,224	
輸入	32,755	32,876	32,448	11,336	10,007	11,003	11,070	
貿易外収支	△ 2,810	△ 3,580	△ 3,171	△ 1,047	△ 1,162	△ 1,299	△ 965	
移転収支	△ 341	△ 544	△ 273	△ 86	△ 106	△ 186	△ 140	
長期資本収支	△ 445	2,592	△ 5,737	△ 724	△ 1,825	△ 1,437	922	
本邦資本	△ 3,309	△ 4,517	△ 5,228	△ 1,270	△ 2,696	△ 2,316	△ 705	
外国資本	2,864	7,109	△ 509	546	871	879	1,627	
基礎的収支	163 (△ 669)	516 (△ 1,870)	△ 4,225 (△ 3,709)	△ 1,001 (△ 413)	△ 510 (△ 935)	△ 566 (△ 1,290)	△ 29 (△ 704)	
短期資本収支	1,388	904	90	192	△ 405	△ 469	242	
誤差脱漏	△ 879	1,004	△ 434	△ 363	△ 39	254	△ 109	
総合収支	672	2,424	△ 4,569	△ 1,172	△ 954	△ 781	322	
金融勘定	672	2,424	△ 4,569	△ 1,172	△ 954	△ 781	322	
外貨準備増減	1,464	1,788	817	391	102	△ 323	151	
その他	△ 792	636	△ 5,386	△ 1,563	△ 1,056	△ 458	171	
外貨準備高	25,232	27,020	27,837	27,735	27,837	27,514	22,793	
為銀対外ポジション	△ 32,816	△ 32,625	△ 37,447	△ 36,495	△ 37,447	△ 38,726	△ 32,939	

- (注) 1. 基礎的収支カッコ内は、貿易収支のみ季節調整した計数。  
 2. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。  
 3. 金融勘定の△印は純資産の減少。  
 4. \*印は暫定。

輸 出 入 指 標 の 推 移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国際収支ベース			通 関		輸 出 信用状
	輸 出	輸 入	貿易じり	輸 出	輸 入	
55年10~12月平均	11,547 (+ 8.0)	10,572 (+ 3.5)	975	11,898 (+ 8.5)	11,972 (+ 3.8)	7,726 (+ 1.8)
56年1~3月平均	12,444 (+ 7.8)	11,310 (+ 7.0)	1,134	12,607 (+ 6.0)	12,446 (+ 4.0)	8,525 (+ 10.3)
*4~6 "	12,568 (+ 1.0)	10,744 (- 5.0)	1,824	12,863 (+ 2.0)	12,020 (- 3.4)	8,340 (- 2.2)
56年 *4月	12,855 (+ 3.7)	10,985 (- 3.9)	1,870	13,179 (+ 6.4)	12,381 (- 1.2)	8,332 (- 1.1)
*5 "	12,482 (- 2.9)	11,038 (+ 0.5)	1,444	12,861 (- 2.4)	12,095 (- 2.3)	8,406 (+ 0.9)
*6 "	12,367 (- 0.9)	10,209 (- 7.5)	2,158	12,548 (- 2.4)	11,586 (- 4.2)	8,283 (- 1.5)
*7 "	12,783 (+ 3.4)	11,151 (+ 9.2)	1,632	13,048 (+ 4.0)	12,450 (+ 7.5)	8,484 (+ 2.4)

- (注) 1. カッコ内は対前期(月)比増減(-)率(%)。  
 2. 輸出信用状接受高は特殊大口を除く。  
 3. \*印は暫定。

た(前月同1,315百万ドル)。また、貿易収支季節調整後のベースでも、経常収支は、147百万ドルと小幅ながら4か月連続の黒字を記録した。

もっとも、長期資本収支は、対外証券投資の高水準持続や円借款供与の増加などから本邦資本が引続き大幅な流出をみたため全体で1,437百万ドルの大幅流出超となり、総合収支では781百万ドルと4か月連続の赤字となった(前月同954百万ドル)。

なお、7月末の外貨準備高は、27,514百万ドルとなり、55年3月以来16か月ぶりに減少した(前月末比△323百万ドル)。

**(輸出——3か月ぶりの増加)**

7月の輸出(国際収支ベース、季節調整済み)は+3.4%と前2か月減少のあと増加した。品目別

(通関・ドルベース)にみると、鉄鋼が前月に続き減少したものの合繊維物等繊維製品が増加、また船舶も引渡し集中から著増した。

なお、8月の輸出信用状接受高(季節調整済み)は、-2.7%と前月増加のあと減少した。品目別には化学製品、電気機械が増加した一方、繊維製品、鉄鋼、自動車が増加した。

**(輸入——大幅増加)**

7月の輸入(国際収支ベース、季節調整済み)は、+9.2%と前月減少(-7.5%)のあと大幅増加となった。品目別(通関・ドルベース)にみると、鉄鉱石、石炭がかなりの減少となったものの、原油が前月大幅減の反動もあって増加したほか、小麦、砂糖等食料品も数量増を主因に増加した。